

3. モモのチョウ目害虫～モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガ

1 基本生態

モモシンクイガ

★分布:北海道、本州、四国、九州

★開帳:12～20mm

★生態:年間発生回数は1または2世代。

・5月上旬から9月下旬まで成虫が発生する。

・モモ果実では、毛茸がある果実では果面のいたるところに、平滑な果実では縫合部に沿って産卵する。

・孵化した幼虫は果実内を縦横に食害し、老齢期に脱出する。

★寄主植物:リンゴ、ナシ、モモ、スモモ、アンズ、ウメ、マルメロ、サクラ、ズミ、エゾノコリンゴ、ヒメリンゴ、ボケ、クサボケ、ハマナス、サンザシ、エゾヤマザクラなど。

モモノゴマダラノメイガ

★分布:本州以南

★開帳:約 25mm

★生態

・年間発生回数:3回

・越冬世代は5月下旬から羽化し、果樹では6月中にスモモ、モモなどの果実に産卵する。

・第1世代は7月下旬から羽化し、8月にクリ、カキ

の果実に産卵する。

・第2世代は8月下旬から羽化し、早い時期に羽化した個体はクリやカキに産卵する。

・老熟幼虫で粗皮下や樹皮の間に繭を作り越冬する

★寄主植物:クリ、モモ、スモモ、リンゴ、ナシ、カキ、ビワ、ウメ、カンキツ、ブドウ、ザクロ、トウモロコシ、ヒマワリ、キク、タマネギ、アヤメ、アカメガシワ、ヒマラヤスギ、ゴヨウマツ、モミ、ツガ、ハマボウ、自生グリ等、上記を含め 17 科 44 種以上が知られている。



図1. モモシンクイガ成虫(上)と果実を加害する幼虫(下)



図2. モモノゴマダラノメイガ成虫(上)と果実を加害する幼虫(下)

2 重点防除時期

★成虫発生期:5月～9月(収穫期まで)

3 効果のある防除薬剤と施用方法

- ★発生予察情報等から発生状況を確認し、適期防除に努める。
- ★地域の防除指針に従って散布むらがないように適切に殺虫剤を散布する。
- ★モモシンクイガに対しては交信かく乱剤も有効である。地域全体で使用することで効果が上がる。

4 防除の特徴

モモにおけるシンクイムシ類の防除時期(参考:国内向け生産地慣行防除)

防除時期	早生種	中生種	晩生種
袋かけ前 5月下旬～6月上旬	有機リン系	有機リン系	有機リン系
6月中旬	ジアミド系	ジアミド系	ジアミド系
6月下旬	スピノシン系 または 合成ピレスロイド系 (除袋直後)	有機リン系	—
7月上旬～7月中旬	—	スピノシン系 または 合成ピレスロイド系 (除袋直後)	有機リン系
7月中旬～8月上旬	—	—	スピノシン系 または 合成ピレスロイド系 (除袋直後)

- ・上記の防除スケジュールは、果樹病虫害防除暦(JA全農やまなし編)による。
- ・各地域の防除指針、防除暦等に記載されている登録薬剤を選択する。
- ・モモシンクイガに対し交信かく乱剤を使用する場合は、4月中旬～下旬に設置する。
なお、小面積では効果が低下するので、地域全体で取り組む。

〈山梨県果樹試験場〉